

三田国際学園高等学校



学校紹介

メンバー 西村、市川、鵜殿、最勝寺



メンバー全員それぞれ違う研究をしており、西村・市川・最勝寺は微生物系、鵜殿は情報系の研究をしている。



学校紹介

課題に取り組むにあたり工夫したところ

プランターの置き方

→プランター7個を3個・4個の2つに分けおいた。



手前に研究区2個・基準区2個
奥に研究区2個・基準区1個と
置いた



学校紹介

仮説

	基肥	起生期	止葉期	合計
基準区	7.5	13.5	9	30
研究区	8.5	13.5 (4.5×3回)	18	40

- ・ 起生期が梅雨の時期と被るため、3回に分けて与えることで肥料が流れ出るのを防ぐ
- ・ 基肥より止葉期の施肥料を増やす方がタンパク質含有量向上により効果的



学校紹介

想定と実情の比較

害虫の影響を受けることを想定していたが、実際は害虫より雑草による影響がすごかった。



小麦の穂の色に関して

北海道で見てきた小麦



自分が育てていた小麦

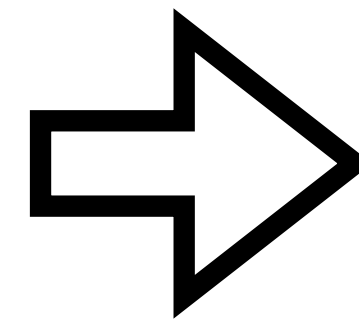




小麦の穂の色に関して

北海道との条件の差

日当たりの良さ
風通しの良さ
与えてる肥料の量
土壌の違い
etc..



葉緑体の働きに直結する
日当たりが大きな要因
だと考えられる



タンパク質含有量・収量

サ ン プ ル 名		たん白質
三田国際	基準区	20.2 %
三田国際	研究区	20.8 %

差が0.6%と小さかった

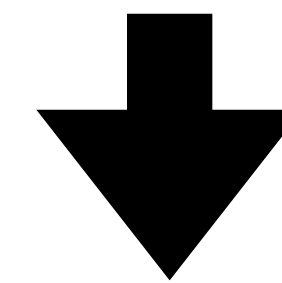


タンパク質含有量・収量



タンパク質含有量が少なかった要因

1. 収穫時期が遅れた
2. 雑草により栄養を吸い取られた



収穫時期が遅れ、枯れるのに栄養を使ってしまった。



害虫による影響



今回見られたもの



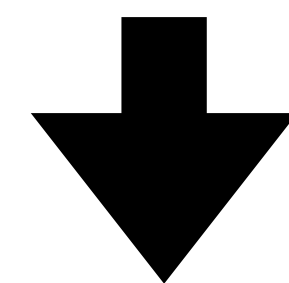
斑点粒



害虫による影響



斑点粒はカメムシによる吸汁によって引き起こされる



今回見られた小麦の種子の斑点もカメムシによる被害なのではないのかと予測できる



雑草による影響



プランター内に生えていたもの



学校に生えていたもの



考察

プランター内での小麦の栽培は大規模に農地で行う栽培とはまた違う注意払う必要があるということがわかった。

また、収穫時期が小麦の品質に大きく関わってくることわかった。